

研究 成 果 報 告 書

(ふりがな) あさおか つよし

氏 名 朝 岡 剛

現 職 (所属名、職名等) 山形県飽海郡 遊佐町立吹浦小学校 教頭

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名 平成4年3月修了

教科・領域教育専攻 言語系コース 国語

1 研究テーマ

小学校における系統的な俳句創作指導 ―系統表と年間指導計画の作成―

2 研究の概要

(1) 俳句を創作する意味 (そのねらいと教材性)

従来の俳句の教材化の立場は、伝統文芸としての俳句の紹介であり、その鑑賞の初歩の指導としての位置づけであった。現行の学習指導要領においては、伝統的な言語文化を体感するために、「詩、短歌、俳句を作ったり物語や随想を書いたりする」という言語活動が例示された。俳句の創作を通して、伝統的な言語文化にふれ、物の見方や考え方を深めることにそのねらいがあると考えられる。

(2) 俳句指導目標の系統化

俳句指導の目標の系統化については、藤井國彦氏の試案がある。(注1) 小学校1年から6年生まで、季節を表す言葉探し、言葉の意味やリズム探し、書きたい事柄を五、七、五のリズムある文にまとめる、音読や句会を通して鑑賞する目を養う流れで目標を配置している。俳句の創作指導については、岐阜県大垣市や愛媛県松山市のように、幼児のうちから、「遊び」の一つとして取り上げている地区も見られる。そこで、藤井試案を土台にして、次のように目標を系統化してみた。(注2)

① 入門期 (小学校1・2年)

- ・身の回りから、季節を表す事柄を見つけ、言葉や短い文として書きとめる。
- ・さまざまな言葉遊びを通して、言葉で表現する楽しさを知り、読んだり書いたり、伝えたりすることができる。(しりとり、ことばの仲間わけ、似た言葉探し等)

② 理解期 (小学校3・4年)

- ・生活の中から生まれた発見や感動を短い言葉でとらえ、記録する。
- ・書きたい事柄を五、七、五のリズムある文にまとめることができる。
- ・季節を表す言葉を入れたり、言葉を入れ替えたりして、自分の思いが伝わる表現に直すことができる。

③ 創作期 (小学校5・6年)

- ・季語、リズム、字余り、字足らず、取り合わせ、一句一章、二句一章など俳句の叙法の働きを考えながら、自分の思いを表す俳句を作ることができる。
- ・選句の観点を踏まえて選句をし、作品の出来ばえについて自分の考えを述べる。
- ・伝統文芸としての俳句の歴史を調べたり、句会を体験したりできる。

3 まとめ

俳句の創作指導は、小学生にとってふさわしい表現活動である。いつからでも始められるし、経験が少なければ下の段階から順序よく指導をすることも可能である。児童は、自分の発見や思いを表現を駆使して表そうとする。創作指導例については、今後の研究として積み上げていくが、年間を通した朝の帯活動として位置づける方法を考えていきたい。

(注1) 藤井國彦他『言葉の力をつける俳句単元の計画と指導』2008年 明治図書 P13

(注2) 同

P14～16